

学校目標			重点目標				
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す。 2 学力を保証し、人間的成長を保証し、進路を保証する高校を目指す。			1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着 2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成 3 地域社会を愛し活躍できる人づくりと進路の保証				
			今年度の重点目標				
			① いじめ・暴力のない「安心・安全」な学校をつくります。 ② 時間を守り、時間を有効に活用することができる生徒を育てます。 ③ 身だしなみを整え、あいさつと清掃を進んで行う生徒を育てます。 ④ 授業を大切にし、生徒の基礎力と専門性を伸ばします。 ⑤ 他者と協働し、地域に貢献することができる人材づくりを進めます。 ⑥ 生徒に、見通しを持たせ、わかるように伝え、共感的に関わるように努めます。				
総合評価	[成果と課題] ・ コロナ禍により学校行事や授業内容等変更を余儀なくされたが、各分掌において創意工夫を行って教育活動を行った。次年度以降も感染症予防に留意した教育活動を充実させていく必要がある。 ・ 生活指導係を中心に、毎朝の遅刻指導・服装指導により、多くの生徒が社会性を身につけつつある。しかし、一部の生徒の服装面の乱れに対して継続的に指導を行っていく必要がある。 ・ 特別な支援を要する生徒に関する情報を職員間で共有することにより、生活面・学習面の支援が行い易くなった。支援を要する生徒は年々増加傾向にあるため、更なる支援体制の強化が必要である。 ・ 全ての生徒が、自ら学び行動できるように、更なる指導体制の充実と新しい評価方法の研究が必要である。 ・ SPH後継事業はコロナ禍により充実できなかったが、引き続き地域との連携を深め充実した取り組みを行っていく。生徒が主体となって取り組みができるように教員の指導体制の充実も図る必要がある。		[改善策・向上策] ・ 新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中において、生徒や教員が感染しないように注意を払い、よりよい教育活動や学校行事が開催できるように取り組んでいきたい。 ・ 生活指導の対象となる生徒は固定化されており、担任・学年と連携し、遅刻や服装の指導、学習活動への取り組み等の改善指導を粘り強く行っていくことが重要である。また、家庭とも緊密に連携を図り、協力して生徒の指導に当たることが必要である。 ・ 特別な支援を要する生徒が学校生活を円滑に行えるよう、職員間の情報共有やSC等外部との連携を強化し、よりよい支援・指導方法を充実させることが必要である。 ・ 令和4年度からの新教育課程の実施を踏まえ、新たな学びの方法や評価について職員研修等を通じて研究していく必要がある。 ・ 「地域人教育諏訪」という地域連携の仕組みを活かし、生徒が主体的で探究的な学びが行えるように今後も指導内容の研究を行っている必要がある。商業科・服飾科の連携をさらに深め、普通科も含めてチーム諏訪実として校内体制の充実とノウハウの継承が必要不可欠である。				
	領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度 A B C D	改善策・向上策
教育活動	Ⅰ 生徒指導 生活指導係 2学年 3学年	1 社会的資質・規範意識の向上	・ 安心・安全な生活環境の整備 特に、いじめ・暴力の未然防止と、慎重・毅然な対応	・ 暴力・いじめの事案が発生してしまいたいへん残念であった。慎重で毅然な対応には十分努めた。		○	・ 日々、生徒の様子観察、情報収集、アンケートを通じて今後も未然防止に努めていく。
			・ 交通法規を遵守し、交通安全意識の向上 交通安全モデル校として他の模範となるべく交通マナーの実現	・ 並列通行、横断時の安全確認、左右通行区分の徹底ができていない。交通マナーをいかに向上させ、いかに事故の未然防止を図るかは大きな課題である。		○	・ 呼びかけや、立ち番活動を通じて改善を目指していく。 生徒の自治活動も充実させていく必要がある。
			・ 法律・校則を遵守する意識の向上 規律と秩序ある生活態度の育成	・ 規範意識がある生徒は多数。学校敷地内での喫煙形跡あり。学校に必要なものの持ち込みが増加。		○	・ あらゆる教育の場面において、全職員による統一した指導が必要。
			・ マナー向上の促進 節度ある学校生活と地域からの信頼の構築 ・ 倫理観・道徳観の向上を呼びかける	・ ごみの投げ捨て、駅ビルでの床すわりなど地域から苦情をいただいた。 ・ ごみ箱設置に制限ある年度であったためか、中庭や階段のごみが増加した。常習化しないよう対応したい。		○	・ 学校内で起こることは地域に出ても起こることを職員が認識することが必要。 ・ 法や規則に反しないレベルからモラル、マナー、エチケット向上に目を向かせたい。
			・ 挨拶・身だしなみ・時間を守る指導の重点化 全職員による同一歩調の指導	・ 重点指導項目である頭髪・ピアス・遅刻指導は概ね順調で状況は良好している。スカートの短さは大きな課題。ジャージ、パーカー、トレーナー着用生徒の指導が不十分。		○	・ 全職員による統一した指導が必要。制服の着用について検討中。
			・ 所有物の自己管理意識の向上 個人ロッカーの施錠率の向上	・ 所有物の自己管理意識が低いまま。個人ロッカーの施錠率は30%程度。		○	・ 生徒に対し、自己管理責任の認識を高める指導が必要。
		2 健全育成	・ 人権を守る土壌の育成 他者への配慮ができる生徒の育成 ・ スマートフォンの適切使用について、定期的に指導をしている	・ SNS関係の不適切使用は減少気味である。自分本位の言動が目立ち、トラブルに発展するケースが目につく。		○	・ トラブルにSNSが絡むと深刻化するケースが多いため、外部講師、教科、係等による年間を通じた指導が必要。
			・ 生徒との対話の尊重 問題行動の未然防止・早期解決	・ 職員から生徒への声掛けにより問題行動の未然防止、深刻化の防止を図ることができた事例は多くあった。		○	・ 今後も日々の様子確認や対話を重ねていく。留意する生徒の状況を常に職員会で連絡して深刻化しない努力を継続する。
			・ 生徒・保護者の心情・背景を踏まえた適切な問題行動への対処	・ クラブ顧問との連携は順調であった。学年やクラスとの密な連携に努めていく。		○	・ 報告、連絡、相談をこまめにするよう職員間で確認をする。
			・ 指導の定着を図る事後指導	・ 事後指導は順調。事後指導を拒否する生徒の扱いは要検討。		○	・ 事後指導を拒否している生徒への速やかな対応。
			・ 生徒会活動との連携による、指導効果の向上 自治意識の向上への援助	・ 生徒の自治への協力が努めたが、不順である。		○	・ 対話を重ね、支援し続ける必要がある。
			・ アルバイトへの対応の推進 高校生としての自覚を促す 許可生徒への指導の充実	・ アルバイト実施生徒を減らす対策が見つからない。		○	・ 今後も許可者には定期的に指導をしていく。 ・ 許可生徒への指導充実を図る。

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
教育活動	・ 教育相談係	3 相談と支援	・ 校内チーム支援の推進・協力	・ 状況に応じて必要のある部署と連携し生徒を支援することができた。		○			・ 今後も状況に応じて必要のある部署との連携を図っていく。 ・ ケース会議等必要に応じて開催し、担任・係の連携を深め、同歩調で支援活動が行えるようにする。
			・ いじめや不登校への予防と対応 ・ 特別支援教育の充実	・ 全校講演会の実施や、係通信の発行などの啓発活動や、人間関係のトラブルへの素早い対応を心掛けたが、SNS等によるトラブルの未然防止や対応に苦慮した。		○			・ 日常生活やSNSについての啓発活動を積極的に行う。人間関係のトラブルには早期対応を心掛ける。
			・ 校外関係機関との連携	・ SCのアドバイスに基づき必要な医療機関等と連携することができた。		○			・ 引き続きSCのアドバイス等鑑みつつ、必要な諸機関との連携を図る。
	・ 平和人権係	4 人権意識と仲間づくり	・ 人権意識に基づく学級経営 ・ 人権感覚の定着と向上	・ 道徳教育年間計画の再検討 ・ 教育相談・特別支援係と共催で講演会(11/9 講師 上田情報ビジネス専門学校副校長比田井和孝先生)		○			・ 講演会が生徒にとって効果的なものになるよう、講師の選定、事前・事後をしっかりと計画して実施したい。
	・ 保健係	5 健康・安全教育	・ 健康・安全教育の充実 ・ 生徒及び職員の健康支援 ・ 感染症予防と環境衛生の推進	・ 感染症予防の観点を日常とできるようにする。 ・ 生徒保健委員会の活動として当番活動と展示発表を実施、継続できる		○			・ 地域での感染拡大を視野に入れながら、感染防止に努める。□ ・ 生徒委員会活動では、当番活動を徹底しながら、身近な健康問題を考えられるようにする。
	・ 整美係	6 校舎内外の美化の推進	・ 進んで清掃に取り組む意識の構築 ・ 校内清掃徹底のための職員の監督・指導 ・ ゴミ分別の徹底 ・ 整美委員会の自発的取り組みの支援	・ 新型コロナウイルス感染症対策のためゴミ箱を一時的にHR教室から撤去した。美化に対する意識が高めることができた生徒も多い。		○			・ ゴミの分別、ゴミを包み捨てる、洗って捨てる等の感染症防止対策を生徒個人が意識できるよう呼び掛けていきたい。
	・ 校友会係	7 自主活動の促進 校友会活動の充実	・ リーダーの育成と自主的で組織的な活動 ・ 委員会活動の活性化 ・ 校友会行事・文化祭の質的向上	・ 朝のあいさつ運動や文化祭など、コロナ禍でできることを生徒たちが自ら話し合い、活動することができた。しかし、顧問との連携を図っていくことが今後の課題である。		○			・ 科ノ葉祭は、コロナ禍でできることを図ってきたが、徹底できなかった部分などもあったため、後期は今年度の様子や反省を活かして、生徒とともに計画実施していきたい。
		8 クラブ活動の充実	・ 加入促進と各部の活発な活動 ・ 各種大会、コンクール参加に対する支援	・ 壮行会を行うことができず、代替大会等については昇降口への掲示のみとなってしまった。		○			・ 日常の部活動の様子や大会等の情報発信、結果の報告などを、後期の役員に提案する。
	Ⅱ 進路指導 ・ 進路指導係 ・ キャリア教育係 1学年 2学年 3学年	1 進路意識の高揚および早期確立 (1)自己理解を深める (2)職業観を確立する (3)自己の将来を展望する (4)進路を吟味する (5)社会参加を促す	・ 進路講演会、校内外ガイダンス・説明会、個人面談を通じ、学年に応じた進路意識の確立 1年生 進路意識の高揚および情報収集 キャリアデザインに向けた自己理解 ミニメッセ、インターンシップによる地域産業理解 2年生 進路の方向性の決定 インターンシップの活用 ミニメッセの活用 オープンキャンパスの活用 諏訪圏工業メッセへの参加	・ 1学年では、9月に「ミニメッセ」、10月に「経営者と語る会」を行い、地元企業への理解を深めた。「働く」ことについて考えることで、生徒の勤労観を深化させる良い機会となった。 ・ 本校で行った「長野県中小企業家同友会諏訪支部10月例会」に1～3年生30名、教職員10名が参加した。県内17の企業経営者と「学ぶ」をテーマに意見交換を行った。 ・ 諏訪商工会議所を通して、1学年インターンシップに協力いただける企業を募った。生徒の進路選択の幅を持たせるため、1企業だけでなく、2種類の職種の企業体験を行った。「仕事について」「社会人と学生の違い」「お金をもらふこと」「お客様への対応」などについて考える良い機会となった。 ・ 一部の生徒は、インターンシップに対する意識が低く、基本的な学習習慣もできていないため、協力企業様に不快な思いをさせてしまったことがあった。		○			・ 本校のGRAND DESIGNにも位置付けられている「地域社会と直結することで、即戦力の社会人として成長する！」の足掛かりとして、インターンシップ、ミニメッセ、経営者と語る会等を強力に推進していく。 ・ インターンシップ実施に当たっては、生徒の基本的な生活習慣など、根本的な部分の徹底を図っていく。また協力企業様との事前打ち合わせについても入念に行っていく。
		2 進路の保証	・ 個人の興味、能力、希望に応じた進路選択と実現 3年生 本人および保護者の納得した進路選択(進路希望とその実現)	・ 今年度は、コロナ禍の影響で予定した進路行事が中止となり、生徒や保護者の皆様から不安の声が上がった。商工会議所の協力も得て、本校で企業説明会を実施した。(52社参加)		○			・ コロナ禍の影響がかなり大きい。就職では、行事の中止や選考の1か月遅れた。進学では、オープンキャンパスのweb上での参加となってしまう、ミスマッチが生じないか心配している。
	Ⅲ 学習指導 ・ 教育課程委員会 探究・学習係 ・ SPH後継事業 ・ (地域人教育・諏訪)推進委員 1学年 2学年 3学年	1 教育課程の検証 新教育課程の編成	・ 新教育課程の編成	・ 令和4年度入学生用の教育課程の編成を行った。 ・ 進路に合わせた科目が選択できるよう、現行の教育課程の3年次の選択科目の編成の見直しを行った。		○			・ 基礎学力の定着と多岐に分かれる進路に応じた選択科目の充実は毎年検討していく必要がある。
		2 基礎学力の定着 21世紀型学力の養成	・ BabyStep(ドリル)の活用 ・ (集中力を高める)読書週間の充実 ・ 家庭学習の習慣づけ ・ 科目指導法の研究と実践 ・ 学習理解度の把握と定着への継続的指導	・ 基礎学力診断テスト後の検討会により、基礎学力および学習力について把握することができた。 ・ BabyStep(国・数・英→一般常識)を行う事で、基礎学力向上に向けての足掛かりとすることができた。		○			・ 基礎学力習得の確実な習得に向けたPDCAをサイクルを回していくために、「基礎力診断テスト」の活用方法について、他校での取り組みも基礎学力習得のために実施しているBabyStepについて、学年・教科と相談しながら、より有効な活用方法を考えていく。
		3 意欲・関心の喚起と観点別評価	・ シラバスの検証と授業改善 ・ 観点別評価の実践研究 ・ 授業態度、授業に臨む姿勢の指導	・ 各教科の授業において、年度当初にシラバスを提示し、年間の授業内容について周知を図った。 ・ GIGAスクール構想に基づきICT機器が整備されてきたが、探究的な学びにどのように結び付けていくのか、各教科担当者で模索中である。		○			・ 新学習指導要領を踏まえた学習指導と学習評価についての研修に参加し、観点別評価について理解を深めていく。 ・ 授業時での学習意欲の喚起を工夫することで、さまざまな機会での意欲的な学びを招来していく。
		4 SPH後の地域との連携	・ 地域文化・伝統に関する講演会 ・ 文化ビジネス研究における実践 ・ 地域課題についての発表会	・ 専門科目での取組みはもとより、1年生は地域の方による講演会、2年生は文化ビジネス研究の科目で行っている。3年生は課題研究で地域と連携した取組みを諏実タウンで実践できた。		○			・ パートナーシップ協定に基づく推進会議の充実をはかるとともに成果発表や中間まとめを引き続き丁寧に行うとともに本校の取組みを中学生や地域の人々に知ってもらう工夫を引き続きしていきたい。

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
教育活動	Ⅳ 専門科 商業科 会計情報科 服飾科	1 専門教育の改善・充実	- 専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 - 進路希望に即した学習構成と学習支援	<商業・会計情報科> - 生徒の興味・関心、進路希望に合わせて選択講座を開講している。(商業科) - 簿記と情報の高度な資格が取得できるように指導しており、成果が出ている(会計情報科)		○			<商業・会計情報科> - 科目担当者が相談し合いながら授業を行うことによって、生徒の意欲を引き出すようにしている。 - 今年度は対面授業のスタートが遅かったため、補習授業をこまめに行い遅れを取り戻すようにした。また、1年生の簿記検定前補習は習熟度別講座編成を行い、生徒の理解度に対応した。
				<服飾科> - 第11回学習成果発表会を1月16日(土)に実施することができた。 - 社会人講師、行事を通して、学習内容が深まるように計画することができた。今年度は、例年通りいかないことが多い中、リモートでの講習等できる範囲で行えたので、来年度以降もこのような形でやっていきたい。		○			<服飾科> - 今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学習成果発表会も保護者限定公開となったが、生配信により多くの方に観ていただけた。今後も従来通りに捕らわれず、新しい形を模索しながら、教育活動を行っていく必要がある。 2年生は休校により制作内容を一部変更して行ったため、3年次の授業内容に組み込んで指導する。
		2 資格取得の促進	進路実現に向けた受験指導	<商業・会計情報科> 進路実現に向けた資格の意義を説明し、放課後の補習を該当者全員に行っている。		○			<商業・会計情報科> - 個人の能力に合わせたきめ細かな指導をしていくように心がけた。(商業科) - 目的意識を明確に持たせることによって生徒が意欲を持ち、積極的に資格取得にチャレンジした。(会計情報科)
				<服飾科> 各種検定に積極的に取り組んでいる。補習や対策講座を設けて支援している。		○			<服飾科> - 積極的に行えるような更なる支援が必要である。 - 個人の能力に合わせた指導をしていく。
		3 地域との連携	- 各種取り組みの継続と発展 - 諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業	<商業・会計情報科> 10月10日・11日に「諏実タウン」を実施。約1200人余りの保護者地域の方々にご来場いただき、学習成果発表を行った。また「キッズビジネスタウン」も実施、約150名程の小学5・6年生に体験をもらった。いずれのイベントも感染対策を行い実施した。 - 商品開発、文化ビジネス研究授業では、地域連携の活動ができている。	○				<商業・会計情報科> - 今年度、新型コロナウイルス感染拡大の中であったが、多くの皆様のご支援のお陰で実施することが出来た。 - 新しい販売方式を導入したが、様々な反省点も出されたので今後改善策を考えていきたい - 活動や取り組みが単年度で終わらないように、継続した調査研究にしていきたい
				<服飾科> 10月10、11日に諏実タウンにてファッションショーを開催。 1月～2月に上諏訪中学校ものづくりサポーターに協力予定。			○		<服飾科> - 活動の参加体制と活動の方向性を改めて検討していきたい。 - 今後のものづくり科との連携は、諏訪市と相談しながら進めていきたい。

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
学校運営	Ⅰ 教務係	1 学校活動全般の企画・運営	・ 日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集	・ 新型コロナウイルス感染症に伴う休校等に対応し、行事計画などの変更を柔軟に対応することができた。	○				・ 新型コロナウイルス感染症による行事内容の変更、年間行事計画の変更等を各部署と連携をとりながら行っていきたい。
			・ 業務の整理・改善と新規企画(反省職員会の充実) ・ PTA活動の精選	・ 1学期の反省アンケートを集約し、意見を関係部署で検討を依頼した。 ・ 全校生徒・職員が利用できるシステム手帳の作製に着手した。 ・ 反省職員会は1月20日より実施し、次年度の事業へ活かしていく。 ・ 新型コロナウイルス感染症予防のため、PTA総会や理事会は書面決議とした。また、地区懇談会は実施しないこととした。役員の選出方法を変更し、理事の精選を行う予定となっている。	○				・ 反省職員会に向けて今年度の業務や計画について各部署で検討し、次年度へつなげていきたい。 ・ システム手帳は次年度に向けて作成中 ・ PTA役員の選出方法については、2月の理事会で検討し4月の総会で決定する予定。
			・ 緊急時等の適切な情報把握と対応(緊急メールの活用)	・ Google Classroomを利用し、生徒への連絡はできるようになった。 ・ 保護者の緊急メールへの加入状況は多くないが、新型コロナウイルス感染症への対応や行事の連絡等に利用している。		○			・ Google Classroomについては、生徒が利用するように促していく。 ・ 緊急連絡メールへの加入は引き続き依頼をしていく。
			・ 電子化による情報の共有(月暦・施設予約)	・ 伝言板や施設予約等イントラネットの充実により職員への伝達事項が伝わりやすくなった。	○				・ 伝言板を毎日確認するように職員の意識を高めていく。 ・ 校務支援システムの運用後はそちらを利用していく。
		2 職員研修の充実	・ 研修内容の精選 ・ 研修会の設営と支援	・ 特別支援教育研修会(8/24)、ICT講習会(11/11)、基礎学力報告会等の研修会を各部署で企画し、支援を行った。	○				・ 今後も必要な研修については、日程や場所等の調整を各部署と行っていく。
		3 広報活動の充実(開かれた学校づくり)	・ 学校案内・学校要覧の発行	・ 休校期間もあったが、例年通り5月中旬に完成することができた。諏訪地区全中学3年生に配布できるよう、教育会館に依頼した。	○				・ 学校案内は次年度以降も、同時期に作成し、地区内の全中学生に配布できるようにしたい。また、学校要覧も同時期の完成を心がけたい。
			・ HPの充実(更新)	・ 情報係と連携し、随時HPの更新を行った。		○			・ 生徒や保護者、地域の方に向けて更新の頻度を増やしていきたい。
			・ 保護者等への情報発信	・ 保護者懇談会に合わせて「諏実通信」を発行した。また、授業公開等の連絡を緊急メールを利用して周知を行った。		○			・ 緊急メールとHPにより、保護者への情報発信の機会を増やしていきたい。
			・ 学校開放事業の周知と充実(中学生体験入学) (授業公開)	・ 新型コロナウイルス感染症予防のため、4月のPTA総会の日の授業参観、6月の1回目の公開授業、夏期休業中の体験入学が実施できなかった。 ・ 9/19(土)に体験入学を行い、昨年並みの参加者があった。休日のため保護者の参加者も多くあり、体験授業の内容に感心している方が多かった。 ・ 10/30(金)に公開授業・学校説明会を行い、54名の参加があった。	○				・ 新型コロナウイルス感染症の状況によるが、次年度は授業参観、公開授業、体験入学を例年通りの時期に行いたい。
	Ⅱ 学校評議員会	1 本校の課題の共有と認識	・ 課題の整理と各分掌への報告	・ 新型コロナウイルス感染症予防のため、第1回は書面送付という形で行った。第2回は開催することができ評議員の方からご意見を頂いた。第3回の評議員のご意見を今後の各部署の事業に反映していきたい。	○				・ 各部署で年度末評価をまとめ、次年度の事業に向けてご意見をいただく。
	Ⅲ 地域連携 ※商業・服飾以外	1 近隣へのボランティア	・ 環境美化の推進:整美委員を中心に学年(学級)単位で通学路のゴミ拾い・除草を行う。(整美係)	・ 地域の美化(ゴミ拾いや清掃)の奉仕活動を、現在行っている他に時間を取るよう努力したい。		○			・ 地域の方が来校することがある行事(諏実タウン等)の前に行いたい。
			・ 交通・生活・行動困窮者への配慮と協力 警察・ボランティア団体との連携活動(防犯登録・施設調査と改善呼びかけ)(生徒指導)	・ コロナ感染対策のため諸機関との連携活動は基本的に行われていない。		○			・ 来年度は他機関との連携・協力活動が復活し、より教育効果を高めることができるよう期待をしたい。
			・ 交通安全の呼びかけ・電車の乗車マナーの呼びかけ(校友会)	・ 昨年度まで行われていた交通安全の呼びかけ等未実施。		○			・ 今後、生活指導係と相談・連携を図り、新役員と計画し行っていく。
			・ 地域からの生徒派遣依頼等に対する協力(校友会)	・ 今年度予定されていたものは中止、またはオンライン会議という形となった。		○			・ 今後地域との活動ができる状況になれば新役員体制で積極的に行っていく。
		2 高校大学等との連携	・ 関係大学との研究協議・実践 ・ 授業体験によるインターンシップ	・ 夏季休業中に、大学の授業を体験する「松大チャレンジ」を計画していたが、コロナ禍で中止した。					・ 1・2学年希望生徒対象に、春季休業中に「松大チャレンジ」を計画し、高大接続に向けて、進路意識の高揚を図っていく。
		3 企業との連携	・ インターンシップ等の推進 ・ 採用担当者の講演会 ・ 内定生徒と採用担当者との面談	・ 諏訪商工会議所を通して、インターンシップに協力いただける企業を募った。1年生全員が参加予定である。 ・ 内定者懇談会をコロナ禍の中各企業にご協力頂き、12月中旬に行い、生徒の入社後の意識を高めることができた。	○				・ コロナ禍で、インターンシップを存続させていくために、商工会議所、同友会等との連携を強化していく。 ・ コロナ禍ではあったが内定者懇談会には現在9割以上の企業に参加して頂くことができた。
		4 中学校との連携	・ 他地区を含む中学校訪問等	・ 11月に地区内の中学校を訪問し、入学者選抜に関する細かい変更点を伝えたり、意見を聞く機会としている。	○				・ 専門科の授業内容を理解した上で受検してもらえるよう、体験入学や公開授業へ参加していない生徒については授業見学を勧めよう。また、生徒の情報を可能な限り交換し、今後の対応に活かしていく。